

今年の西都原はカラフルです

今年の春は、全国的に桜の開花が遅れ、例年通りに開催された花祭りには桜がないという状況でした。しかし、自然の力は偉大です。遅れた開花の埋め合わせをするかのよう、その後の美しさは、例年にないものでした。4月の10日前後に満開を迎え、新入学・進学進級のセレモニーを各地で盛り上げてくれたようです。

そして、桜を追いかけるが如く、考古博物館裏の高取山のツツジが、いつになく華やかに咲き揃いました。赤やピンク、白の花が、タイミングを合わせるようにピークとなる年（当たり年と呼んでいます。）となりました。更には、古代生活体験館前の桐の木。こちらも可憐な紫の花を咲かせています。GWまでは、赤・白・ピンク・紫の競演が続くようです。



2010年の口蹄疫発生によって、数ヶ月の臨時休館を余儀なくされるなど、大きく落ち込んだ来館者数も、少しずつ回復傾向にありました。しかし、昨年度（2016年度）は、4月の熊本大地震などもあり不安の幕開けとなりました。春から夏にかけては前年度よりも低調な状況でしたが、館職員、NPO法人メンバー、ボランティアの皆さんなど、博物館に関わる全てのスタッフの努力が実を結び、夏以降の入館者数は順調に伸び、最終的には数年ぶりに12万人の大台を超えることができました。

そして、新年度（2017年度）を迎えました。今年の春はカラフルな西都原です。

博物館には、新館長・副館長を迎えつつ、学芸普及担当には異動はなく、これまでに蓄えた力を存分に発揮していきます。

咲き誇る花々に寄せた訳ではありませんが、春の企画展は「色」がテーマです。

企画展Ⅰ「色が語る いにしへの技と心」（4月22日～6月18日）

縄文時代から江戸時代まで、考古資料を通した「色」と、そこに込められた人びとの思いを伝えます。

世界最古の赤彩縄文土器、赤く塗られた古墳時代人骨、青・緑・黄と鮮やかなガラス装身具、白い光沢が古代の有力者を惹きつけた南の貝、誰もが憧れた金銀の煌めき。

色を切り口として、いにしへの技と心に迫ります。



(東 憲章)

【2017年度の展示会】

企画展Ⅰ 「色が語る いにしへの技と心」

2017年4月22日～6月18日

特別展 「日向諸県君と葛城氏」

2017年7月15日～9月10日

国際交流展 「台湾鉄器文化の粋 新北市十三行遺跡と人びと」

2017年10月7日～12月3日

企画展Ⅱ 「豊と日向」（大分県埋蔵文化財センターとの合同企画）

2018年1月13日～3月18日